

こどもの声（「こども若者★いけんぶらす」等で出された意見）



寄り添ってほしくて相談するのだが、**返ってくる言葉は解決しようとする言葉で、寄り添ってくれない**

「悩んでいることがあったら相談できる」というのがこどもにもっとわかりやすく伝わるとよい

学校で相談窓口のことを紙で配られたただだと、**何をどう話していいかわからない**

学校のアンケート結果が親に伝わるのが怖くて、回答を変更するしかなかった
親のこととか気にせずに、安心して相談できることが大事

SNSによる相談は電話相談よりハードルは下がるが、電話の方が相談しやすい人もいる
色々な相談窓口があることが大事



こども目線の課題例

- 利用できる相談窓口について、こどもに十分周知できていない？
- どう相談すればよいか分からないなど、相談窓口の利用にハードルを感じている？
- こどもがどう感じているか、相談を受け止める側が十分に把握していない可能性？
- 相談窓口は、SNSに加え、電話、対面も含めた多様な窓口があることが望ましい？

等

こども家庭庁「こどもの悩みを受け止める場に関するプロジェクトチーム」発足（令和6年11月26日）

1. 設立の趣旨

「こどもまんなか社会」の実現を目指し、**大人目線ではなくこども目線で、悩みを抱えるこどもたちが躊躇なく悩みを打ち明けられる環境を作っていくため**、こども家庭庁に「**こどもの悩みを受け止める場に関するプロジェクトチーム**」を設置し、次の取組を進める

- ① **こどもや支援団体等との積極的な意見交換**
- ② こどもに関する**官民の相談窓口の実態や相談を受け止める側が留意すべき点の把握**
- ③ こどもの悩みを受け止めるために**有益な諸活動について、積極的・効果的な広報** 等
（※ こどもの悩みを受け止める場の実態把握・広報事業（令和6年度補正予算案 1億円（新規）））

2. 構成員

入庁1年目の若手職員や、民間企業・自治体からの出向者などの現場経験者等をはじめ、多様なバックグラウンドを持つこども家庭庁職員が参加（計31名）



▲ プロジェクトチーム発足式で
若手職員らと意見交換する三原こども政策担当大臣